

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平 成 22 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 2 号

平成22年 4 月 30日
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ	—	並	モモ	ナシメシクイ	早	少
	もみ枯細菌病	—	並		カメムシ類	早並	多
	ヒメトビウンカ	やや早	やや少	ブドウ	灰色かび病	やや遅	やや多
	縞葉枯病	—	やや多		べと病	やや遅	並
	ツマグロヨコバイ	—	並		キュウリ等	灰色かび病	—
	萎縮病	—	並				
イネミズウムシ	やや早	並					
麦類	アブラムシ類	—	並少	イチゴ	うどんこ病	—	やや多
	ヤノハモグリバエ	—	少	タマネギ	べと病	—	やや多
ジャガイモ	疫病	やや遅	やや少	ナス等	ミナミキイロアザミウマ	—	並
モモ	灰星病	やや早	並	アブラナ科	アブラムシ類	—	やや少
	黒星病	やや遅	並		コナガ	—	並
	せん孔細菌病	やや遅	やや少	キク	アブラムシ類	—	やや少
	褐さび病	やや遅	並				
	モモハモグリガ	早	並				
ウメシロカイガラムシ	並	並					

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 苗立枯れ

予報内容

発生量

並

予報の根拠

ア. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並と予想されており、発病を助長する条件ではない。

(2) もみ枯細菌病(苗腐敗)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) やや少
縞葉枯病 やや多

予報の根拠

ア. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低いものの、5月1週目以降の気温は平年並か高くなる見込みとされており、ヒメトビウンカの発生時期はやや早いと考えられる。

イ. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月中下旬のすくいとり虫数は43頭と平年(67.7頭)よりやや少なかった。

ウ. 県予察圃場(休閑田)におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は16.7%であり、平成21年までの過去10年間(平成16~20年は欠測)の平均保毒虫率1.4%より高かった。

エ. 昨年は、越冬世代成幼虫の4月の発生量が平年並、保毒虫率が6.5%であった。縞葉枯病の発生は、県南部において平年並であった。

(4) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 並
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月中下旬のすくいとり虫数は11頭と平年(12.5頭)並であった。

イ. 萎縮病は一般圃場において近年ほとんど発生が認められない。

(5) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低いものの、5月1週目以降の気温は平年並か高くなる見込みとされており、越冬後成虫の本田への飛び込み時期はやや早いと考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少~横ばい傾向にある。

(麦類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は91.3%で平年(66.5%)より高かったが、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生は認められなかった（平年38.4%）。

（ジャガイモ）

（1）疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 現在まで発生を認めていない。

イ. ジャガイモの生育は平年よりやや遅い。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

2. 果 樹

（モ モ）

（1）灰星病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における花腐れの初発生は4月16日で、平年（4月19日）よりやや早かった。

イ. 4月22日の巡回調査（南部）では、花腐れの発生圃場率は14.2%で平年（21.7%）よりやや少なかった。北部や中部では、低温傾向により開花が遅れたことから、今後発病が増加する可能性がある。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、気温が低い場合には発病を助長する条件となる。

（2）黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月22日の巡回調査（越冬病斑調査）では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

（3）せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年よりやや少なかったことから、伝染源の越冬量も平年よりやや少ないと考えられる。

（4）褐さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であったため、伝染源の越冬量も平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ (第1世代成虫)

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

- ア. 県予察圃場のフェロモントラップによると4月1半旬にややまとまった誘殺が認められ、誘殺時期は平年(4月2半旬)よりも早かった。
- イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は29頭で平年(10.2頭)よりやや多かったが、過去の多発年(平成2年、426頭)に比べて少ない。
- ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並と予想されており、発生を助長する条件ではない。
- エ. 防除上の参考事項
本虫は成虫で越冬し、交尾後の越冬世代雌成虫がモモ園に飛来するため、コンフューザーMMを設置している園においても、第1世代幼虫を対象とした基幹防除を行う。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月19日と推定され、平年(4月19日)並であった。
- イ. 越冬成虫の生存率は87.3%で平年(89.8%)並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月7日で平年(4月13日)より早く、4月1～5半旬の誘殺数は13頭で平年(58.6頭)より少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 多

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯ではチャバネアオカメムシの飛来が認められていないが、4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低いものの、5月1週目以降の気温は平年並か高いとされており、発生時期は平年並と予想される。
- イ. 前年のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式から、チャバネアオカメムシの越冬世代の予察灯誘殺数(4～7月)は、赤磐市及び津山市ともに平年より多いと予測される。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや多

予報の根拠

- ア. ブドウの生育は平年よりやや遅めで推移している。
- イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並
予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3. 野菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月23、26日の巡回調査によると、トマトでは発生ほ場率が45.5%で過去9年間で3番目に高く、イチゴでは発生ほ場率36.4%で過去10年間で2番目に高かった。キュウリ、ナスの発生量は平年並であった。

イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(イチゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月23、26日の巡回調査によると、発生量は過去10年間で3番目に高かった。

イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は、平年より低く、降水量は平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(タマネギ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月23、26日の巡回調査によると、発生ほ場率は過去10年間で最も高かったが、発生量は過去4番目であり平年並であった。

イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は低く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第1号参照。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月23、26日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬までの黄色水盤への飛来数は、57頭で
平年（201.8頭）より少なかった。

イ. 4月23、26日の巡回調査によると、発生量は県下全般に平年よりやや
少なかった。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、
降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は、48
頭で平年（45.9頭）並であった。

イ. 4月23、26日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、
降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

4. 花き類

(キ ク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は、57頭で平年
（201.8頭）よりやや少なかった。

イ. 4月23、26日の巡回調査によると、県南部の一部の親株床で多発圃場
が見られたが、全般に発生量は平年よりやや少なかった。

ウ. 4月23日の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低く、
降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。
--

電話：086-955-2224
